

令和2年度 学校評価の結果について

本年度の港楽小学校の教育活動の達成状況を把握し、よりよい方向へ改善を図るため、教職員自己評価・児童アンケート・保護者アンケートを実施いたしました。その結果を報告させていただきます。

アンケート結果を、A：そう思う…4点、B：まあまあ思う…3点、C：あまり思わない…2点、D：思わない…1点として集計しました。右の数字は、その平均値です。

1 合言葉<元気いっぱい 笑顔いっぱい なかまがいっぱい>

児童	「元気いっぱい 笑顔いっぱい なかまがいっぱい」で、学校生活を送ることができた。	3.6 (3.6)
保護者	お子さんは、学校生活を楽しんでいると思う。	3.4 (3.5)
教職員	子どもは「元気いっぱい 笑顔いっぱい なかまがいっぱい」で学校生活を過ごしていた。	3.8 (3.8)

多くの児童は、友達と共に楽しい学校生活を送ることができました。全員の児童が充実した学校生活を送ることができるよう、来年度も継続していきたいと思えます。

2 重点項目① 仲間づくりの取り組み

児童	縦割り活動で、仲間と協力して取り組むことができた。	3.6 (3.7)
保護者	お子さんは、縦割り活動で「思いやりの心を育て、人にやさしくできるようになった」と思う。	3.3 (3.2)
教職員	子どもは、縦割り活動で仲間と協力して取り組むことができた。	3.1 (3.0)

新型コロナウイルス感染防止のため、異学年の児童がふれ合う「縦割り活動」の機会が昨年と比べて減少してしまい、保護者からは「上級生との関わりが感じられない」「どんな活動をしているか分からない」という声があがりました。「取り組んだ活動が難しかった」という職員からの声もあるので、内容を精選して誰でも楽しく活動できるものにしたり、学校通信で取り組んだ内容を保護者に伝えたりするなどして改善していきたいと思えます。

<学校評議員より>

- ・ 校外ではあいさつができない子が目立つ。高学年になると多くなる傾向がある。人と人とのつながりはとても大切なことなので、縦割り活動のような同学年だけではなくつながりを今後も大切にしていってほしい。

3 重点項目②-1 授業改善の取り組み

児童	読書を通して、読む力を伸ばすことができた。	3.3 (3.3)
保護者	お子さんは、授業を通して「読む力」を伸ばしていると思う。	2.8 (2.9)
教職員	子どもは、読書活動を通して、読む力を伸ばすことができた。	3.5 (2.8)

「スラスラ読めるようになった」ものの、「内容を理解しているか疑問」「興味があること以外は思考力が乏しい」といった保護者の声がありました。読書をする楽しさを味わわせながら、その中で児童が「もっと内容を知りたい」「読み込んでいきたい」と思うことができるような授業展開の研究を、今年度も取り組んでいましたが、今後も進めていきたいと思えます。

<学校評議員より>

- ・ 「読む力」を育てるには理解力が必要。そのためには国語教育に力を入れていくべき。
- ・ 「いいね」と思ったことを話し合い、意見を言い合えるディスカッションの場を作りたい。その場は「どんなことを話してもいいんだ」「自分の意見を聞いてくれる」というような安心感を子どもに与えられる場に行けるといい。

4 重点項目②-2 授業改善の取り組み

児童	たくさんの本を読むことができた。	3.0 (3.2)
保護者	お子さんは、積極的に読書をしていると思う。	2.4 (2.6)
教職員	子どもは、積極的に読書することができた。	2.8 (3.7)

本の紹介カードやテーマごとの図書コーナーの設置、PTAと連携した親子読書の実践を通して、児童が積極的に読書できるよう心掛けてきましたが、平均値は前年度より下がってしまいました。児童の意欲向上のために読書量が見て分かるカード等を作成するなどして、読書をする環境作りから見直していきたいです。

<学校評議員より>

- ・家にいるとなかなか読書はできないのでは。読書離れしている児童が多いので、今後もぜひこの活動を続けていただき、習慣付けてほしい。

5 重点項目③ 学校行事の充実

児童	行事では、目標をもって、友達と協力して、全力で取り組むことができた。	3.7 (3.6)
保護者	お子さんは、目標をもって、友達と協力して行事に取り組んでいたと思う。	3.3 (3.1)
教職員	子どもは、目標をもって行事に取り組み、友達と協力して、全力で頑張ることができた。	3.8 (3.8)

「学校行事が少ないので分からない」という保護者の声があるように、大きな行事は運動会しかありませんでしたが、保護者の平均値は0.2上昇しました。来年度も今年度のような流れになる可能性があるため、行事内容をより工夫しながら、子どもたちが達成感を得られるよう取り組みを進めていきたいと思えます。

6 防災教育の充実

児童	「自分の命は自分で守ろう」という気持ちをもつことができた。	3.8 (3.8)
保護者	お子さんは、防犯意識を高め、自分で判断して行動できるようになったと思う。	3.0 (2.9)
教職員	子どもは、防災意識を高め、自分で判断して行動することができた。	3.5 (3.2)

防災教室は1年生限定となったが、避難訓練など、折りに触れて防災意識が高まるような話をしてきた結果、家庭でも災害時の対応や備えといった防災に関する発言が増えたという声が聞かれました。教職員の意識も年々高まってきています。今後も重点項目として、災害時にどう行動すべきかを自ら考えて行動できる児童を育てていきたいと思えます。

7 その他

- ・来年度から子どもに授業用タブレットが配られる。まだまだ新型コロナウイルスの感染が心配なので、オンライン授業ができるといった環境が整うとよい。

8 おわりに

学校教育に関する教職員自己評価・児童アンケート・保護者アンケートの結果をお知らせいたしました。本校では、取り組んでいる教育活動についてご理解いただくために、「学校だより」「学年だより」「港楽っ子」「ホームページ」等で情報を発信しております。今後も、より一層の情報発信の充実をめざしたいと思います。

来年度も、皆様のご意見やご要望に耳を傾け、改善や工夫を図り、グランドデザインとして示していきたいと思えますので、ご理解やご協力のほどよろしくお願いいたします。